

長野市中心市街地活性化基本計画

(2期 計画期間 24年4月～29年3月)

江戸初期:北国街道の宿場として街並みを形成
明治期:明治21年に信越線が開通し長野駅が開業
平成期:平成10年冬季オリンピックパラリンピックを開催

【中心市街地を巡る状況】

- 善光寺表参道を軸とした門前都市「ながの」の形成を図るため交流人口、居住人口の増加を目指した1期計画(H19～H23)を実施
- 交流人口、居住人口の減少に歯止めはかかったものの、ピーク時と比較しても交流人口で7割程度、居住人口で9割程度までしか回復していない
- 中心市街地の地価が下落し続け、ピーク時の17%となっている

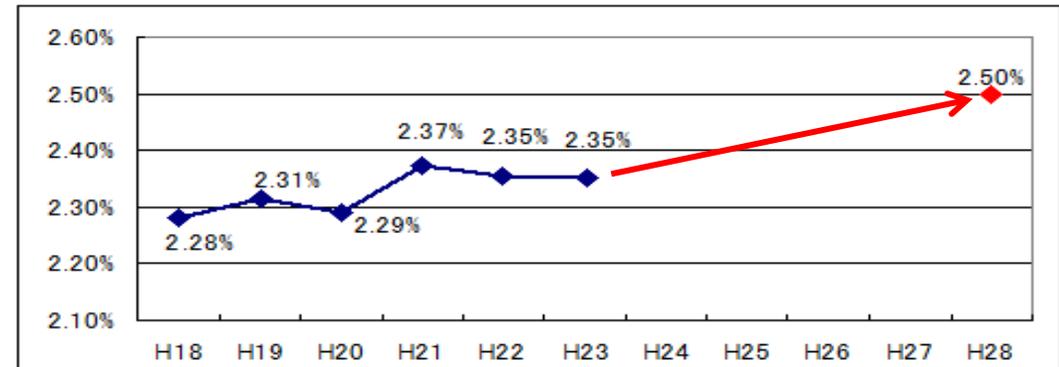
【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H28)
訪れたいなるまち	歩行者・自転車通行量 (休日の善光寺仁王門前)	(H22) 25,555人	26,900人
住みたいなるまち	長野市全体における中心市街地の人口割合	(H23) 2.35%	2.50%
歩きたいなるまち	I. 歩行者・自転車通行量 (中心市街地6地点)	(H23) 126,478人	130,000人
	II. 空き店舗数	(H23) 29件	22件
参加したいなるまち	もんぜんプラザ及び生涯学習センター年間利用者数	(H22) 481,707人	485,000人

【中心市街地に関する指標の推移】

- 歩行者・自転車通行量
 - ・休日の善光寺仁王門前 (H19:24,139人→H22:25,555人)
 - ・中心市街地6地点 (H19:101,894人→H23:126,478人)
- 中心市街地の人口割合 (H18:2.28%→H23:2.35%)
- 空き店舗数 (H16:26件→H23:29件)
- 公益施設利用者数 (H19:373,939人→H23:481,707人)

中心市街地の人口の推移と人口割合(案)



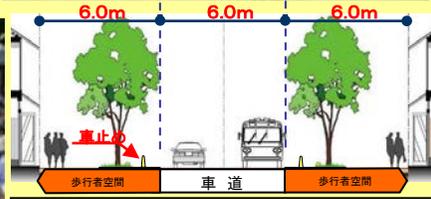
- 訪れたいなるまち⇒①善光寺周辺地区街なみ環境整備事業、②長野駅善光寺口顔づくり事業等
- 住む宅なるまち⇒③後町小学校跡地活用整備事業、④権堂B-1地区市街地再開発事業等
- 歩きたいなるまち⇒⑤中央通り歩行者優先道路化事業、⑥権堂地区市民交流施設整備等
- 参加したいなるまち⇒⑦もんぜんぷら座運営事業、⑧生涯学習センター運営事業等

長野市中心市街地活性化基本計画の事業概要

目標③「歩きたくなるまち」

善光寺表参道の中央通りを車中心から、歩行者に優しく機能的で魅力あふれる通りに整備し、まちなかの回遊性を向上
歩行者優先型となった道路においてイベント等開催し集客効果を発現

⑤中央通り歩行者優先道路化事業



⑥権堂地区市民交流施設整備事業



イメージ

目標④「参加したくなるまち」



長野市が大型空きビルを取得しH15年に公益施設と食品スーパーを導入しオープン。子供広場、市民公益センター、国際交流コーナー等の公益施設を運営

⑦もんぜんぶら座運営事業



市民が生涯を通じていつでもどこでも学ぶことができ、その成果を生かすことができる長野市の生涯学習の拠点施設

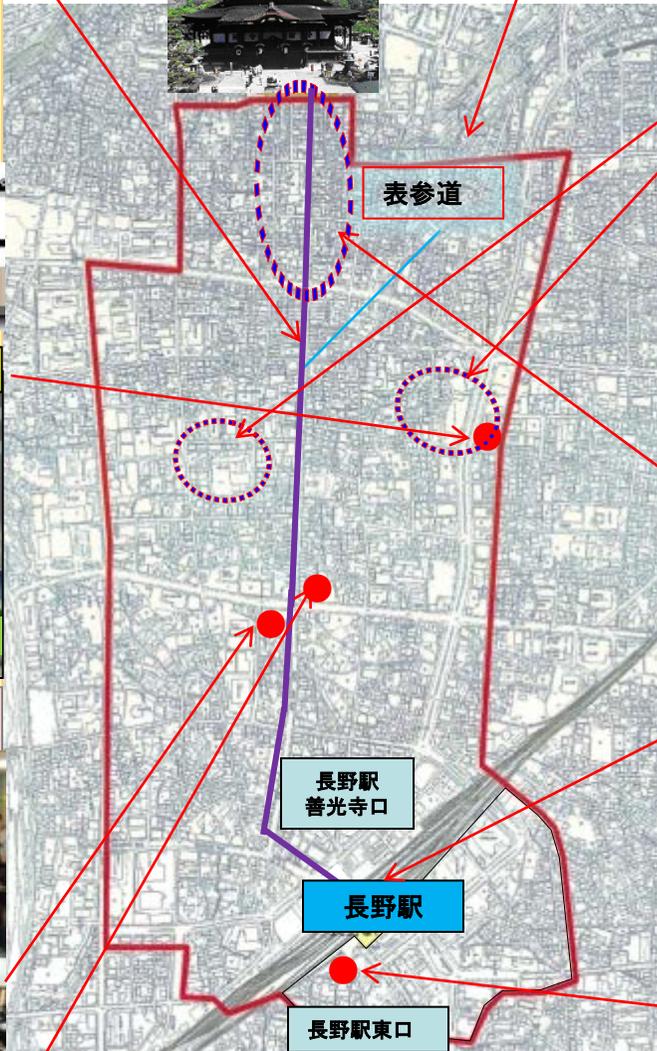
⑧生涯学習センター管理運営事業



『門前都市「ながの」』の核 善光寺



中心市街地
区域
(200ha)



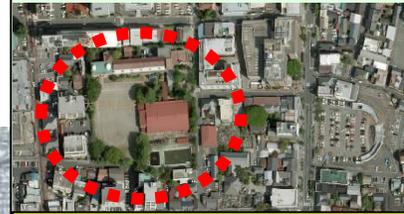
表参道

長野駅
善光寺口

長野駅

長野駅東口

目標②「住みたくなるまち」



平成24年度をもって閉校が決定している後町小学校を、歴史や文化が感じられる教育施設を中心に整備
今後、4年制大学の誘致等を行い交流人口、居住人口の増加を目指す

③後町小学校跡地活用整備事業



イメージ

大通り側から東方を臨む

目標①「訪れたくなるまち」

①善光寺周辺地区街なみ環境整備事業



駒返通り



門前の街なみ

②長野駅善光寺口顔づくり事業



イメージ

善光寺門前町としての歴史的街並みを再生し幅広い世代の回遊性を向上

暫定整備状態となっている長野駅善光寺口を再整備し、機能充実と利便性を図るとともに、「長野の顔」にふさわしい特色ある景観を創出し、中心市街地における回遊の基点としての施設として整備

④長野駅東口バス待機場整備事業



JR長野駅東口に複合交通センターを計画。先行して観光バス等の待機場を整備